

季報

二松学舎大学附属図書館
quarterly report



目次

- ◆ P2 東京の暖房思い出話 佐藤一樹
- ◆ P3 バードウォッチングの季節 伊藤晋太郎
- ◆ P4 「芳野金陵と幕末日本の儒学」企画展・講演会
- ◆ P5 選書ツアー実施
- ◆ P6～P7 教えて、ラーコモ3兄弟
「ラーニング・コモンズを使いたい巻」
- ◆ P8 図書館だより／図書館員のつぶやき

No.94

2015(平成27)年
12月

東京の暖房思い出話

国際政治経済学部国際政治経済学科 教授 佐藤 一樹

朝晩肌寒く、布団の暖かさから抜け出るのが辛くなる季節になると、何年か前から、風向きによって薪をくべるいい匂いが漂ってくるようになった。近所に新築された家の何軒かの屋根の片隅に、煙突が顔を出している。おおかた、そこに設置された薪ストーブか、暖炉からのものだろう。興味本位にネットで調べてみると、日本での薪ストーブの売り上げは、この10年で倍増したとのことである。エアコン、床暖房といった清潔、安全で快適な暖房設備がひとわり普及した次は、目に見える、心理的な暖かさが求められるようになってきたということだろうか。

アメリカの中流層向けの戸建て住宅に、暖炉は欠かせないアイテムである。機会平等に基づく成功への信念を、アメリカンドリームと呼ぶが、その夢の実現を具体的な形で示すのは、何よりも中流のライフスタイルを実現する住宅である。だから、ホームコメディなどのハリウッド映画を見れば分かることだが、服装やヘアスタイルは全く違っただとしても、家での暮らしよう、インテリアや家具は、1950年代、いや40年代、30年代に遡っても、それほど変化はない。中流住宅が夢の具体化であるならば、理想のゴールがそうやすやすと変わってしまったのは困るのだ。こんな事情で、温水による集中暖房が当たり前となったアメリカの住宅とはいえ、暖炉はいつも中流のステータス・シンボルの一つであり続けている。

ひるがえって日本では、冬季の暖の取り方は、短期間にめまぐるしい変遷を遂げてきた。私が幼稚園児の時は、我が家では火鉢とコタツがもっぱら冬の頼りだった。スケルトンと呼ぶ素焼き陶器の放熱器が赤くなるガスストーブもあったものの、朝晩の一番寒い時だけしか使わなかった。ガス代が高すぎたからである。火鉢に用いる練炭は、割りばしに火をつけてから燻す、手間のかかるものだったが、その際に出る、いかにも体に悪そうな臭いに追われるように寝床から出て、台所の凍るような水で顔を洗うのが、冬の朝の一コマとして記憶に残る。

小学校に上がる頃になると、東京では石油ストーブがみるみる広まってきた。その後続いて、ファンヒーターや冷暖兼用エアコンが登場するなど、7、80年代にかけて暖房機器は急テンポで多様化してゆくが、足や手だけでなく、部屋全体を暖かくする暖房という概念を、東京の家庭で一般化させたバイオニアということで、石油ストーブは画期的な意義を持っている。家の中で、白い息が見えるというようなことは、もはや過去のこととなったのである。

灯油を使う石油ストーブをめぐるのは、練炭などよりは

るかに根強い、臭いの記憶がある。どんなに工夫したところで、石油ストーブを使えば、どうしても燃焼時の特有の臭いが部屋中に満ち渡る。家族一同この臭いには慣れっになるが（ならねば、どうしようもない）、子供にとっては、別の臭いの問題もあった。灯油缶からストーブに灯油を移すのは、我が家では主に子供の仕事だったのだが、不注意や不手際で、灯油を床にこぼすことがある。そうすると、いくら拭きとっても、数時間は生の灯油の強烈な臭いが部屋にたちこめ、失敗の当事者はずっと気まずい思いをしなければならないのだ。

学校での暖房の思い出は、臭いよりも、むしろ当時の時代相と結びついている。小学校6年間を通して、石炭やコークスを燃やすダルマストーブが使われていた。毎年11月ごろ、業者がストーブ用の煙突を各教室に取り付けると、立ち並ぶ煙突で校舎の外観が一変し、冬が来ることを実感したものだ。窓から突き出た煙突のほか、教室の天井や床の片隅にも数箇所小さな穴があった。ある時、担任の先生が、関東大震災の後、昭和初年に再建された都内のコンクリート建ての小学校には、どこもスチーム暖房があったのだけれど、第二次大戦末期の物資不足のため、鉄材として全部の設備を供出しなければならず、あれらの穴はその跡だと説明してくれ、戦後生まれの自分も案外戦争の影響を受けていることを実感させられた。高学年ともなると、日直に当たった児童は、朝かなり早めに学校に行き、コークスの入った重いバケツを教室まで運び上げ、火をつけた新聞紙を火種として鋳鉄製のストーブに放り込み、まず薪、それからコークスへと火をつける仕事があったからである。

今度はコークスではなく、灯油が燃料だったけれど、煙突のついたプリミティブなストーブとは、大学でまた再会することとなる。大学に入学した70年代の前半には、都内のほとんどの大学で集中暖房、あるいは少なくともFF式ファンヒーターなど、近代的な暖房設備が導入されていたはずだが、大学移転問題で紛糾していた我が大学は、10年近く、いっさいの設備更新が止められていた。煙突付きの石油ストーブは、広い教室の前方にぽつんと一台置かれただけで、その横でコートを着たまま講義する先生がたともども、寒さに震えながら受講する学生たちは、移転を無理強いしようとする文部省（現・文部科学省）の偏狭で苛烈な仕打ちを呪ったものである。それでも、私を含め多くの学生は、より寒い教室の後方に固まって座っていたのだけれども・・・

バードウォッチングの季節

文学部中国文学科 准教授 伊藤 晋太郎

寒江鵞鵌思儔侶 寒江^{けいちようつれあひ}の鵞鵌儔侶を思ひ
 歳歳臨流刷羽毛 歳歳 流れに臨みて羽毛を刷く

唐^{ほうきつ}の包佶の詩「顧況に寄せらるるに酬ゆ」からの引用です。ここに見える「鵞鵌」とは、韓学宏『唐詩鳥類図鑑』（猫頭鷹出版、2003年）によれば、学名をAythya fuligulaというカモの一種で、和名をキンクロハジロといいます（写真）。雄の頭部は紫がかった黒色であるため、中国では「紫鸳鸯」とも呼ばれます。「鸳鸯」とは「おしどり夫婦」という言葉で知られるオシドリですから、「紫鸳鸯」も雌雄の仲がよい鳥として詩に詠まれているのです。

このキンクロハジロは、日本にも冬の渡り鳥としてやって来ます。千鳥ヶ淵でも冬にはキンクロハジロをはじめ、何種類かのカモを見ることができます。カモだけではありません。冬には多くの種類の渡り鳥が日本に飛来します。夏の渡り鳥も種類は豊富ですが、冬は木々の葉が落ちているため、野鳥が見つけやすい利点があります。そうです。冬こそバードウォッチングの季節なのです。

最も観察しやすいのは水に浮かぶカモ類でしょう。千鳥ヶ淵ではキンクロハジロのほかに、ハシビロガモ・ヒドリガモ・マガモなどを見ることができます。桜田濠まで足を延ばせば、ヨシガモ・オカヨシガモ・コガモなども見ることができます。千鳥ヶ淵なら歩道から水面までの距離がそれほどないので、双眼鏡なしでも彼らの行動を観察できるでしょう。ハシビロガモが仲間とぐるぐる回りながら餌を採る姿は愛嬌があります。

もし、上空でカラスが群がって騒いでいたら、その中心をよく見て下さい。一羽（時には二羽のことも）だけ違う鳥がいるはず。これは集団で天敵を攻撃するモビングという行動です。攻撃されているのはノスリなどのタカです。皇居には、一時は環境破壊や密猟のために絶滅危惧種に指定されていたオオタカも棲んでいます。都会の真ん中でタカが見られることはあまり知られていないかもしれませんが、生態系の頂点に立つ生物が生息していることは、豊かな自然があることの現れです。

木の葉が落ちている利点を生かして樹上の小鳥も探してみよう。千鳥ヶ淵緑道はわずか700m余りの遊歩道ですが、ゆっくり歩けば意外と多くの種類の野鳥に出会えます。スズメやヒヨドリのようにどこでも見かける野鳥はもちろんですが、この季節に面白いのはシジュウカラを中

心とした混群です。混群とは複数の種類の野鳥が一つの群れを作ることです。こうすることによって天敵に対応しやすくしているといわれます。シジュウカラは黒い頭部に白い頬、胸から腹にかけての黒いネクタイ模様が特徴です。混群はシジュウカラのほかに、緑の体に目の周りが白いメジロ、日本最小のキツツキであるコゲラ、そしてスズメなどで構成されます。時には、明治神宮では人の手から直接餌を採ることで有名なヤマガラや、写真集が出るほどかわいらしいエナガが混じることもあります。木の上から「チッチー」「ジクジク」「ギー」といった声が聞こえてきたら、見上げてみて下さい。何種類見分けられるか試してみましょう。

もし「チャッ、チャッ」という声がしたら、緑道脇のやぶの中に注目です。スズメ大の茶色の小鳥がせわしなく動いていませんか。春になれば「ホーホケキョ」と囀るウグイスです。春にウグイスの囀りが聞こえても、遠くにいることが多いので、その姿を見つけることは困難ですが、冬には意外と足元に潜んでいたりするのです。

その他にもオレンジ色のお腹が鮮やかなジョウビタキや、「高鳴き」「はやにえ」で知られるモズ、「清流の宝石」といわれるカワセミなども千鳥ヶ淵で見ることができます。アオサギやダイサギなどのサギ類もよく見かけます。

本学は国立国会図書館や国立公文書館、神田古書店街など学問・研究に便利な環境に恵まれているだけではありません。豊かな自然にも恵まれています。この冬はバードウォッチングを通して都心の自然の豊かさを体感してみてください。



「キンクロハジロ（筆者撮影）」

「芳野金陵と幕末日本の儒学」企画展・講演会

松ヶ崎村（現在の千葉県柏市松ヶ崎）出身の儒者・芳野金陵（1803～78）の資料が二松學舎大学と柏市に收藏されたことを記念して、金陵が残した儒学・漢学の史料を通して、近世の学術・教育について紹介する「芳野金陵と幕末日本の儒学」企画展・講演会が柏市と共催で行われました。企画展は九段・柏両キャンパスで開催され、九段キャンパスは九段1号館地下3階の大学資料展示室にて、10月10日（土）から12月25日（金）まで展示中です。柏キャンパスは図書館内の大学法人資料室にて、10月3日（土）から11月30日（月）まで展示を行いました。

【柏展示風景】



【九段展示風景】



講演会は10月24日（土）、柏校舎にて町泉寿郎文学部教授により行われました。当日は多くの聴衆が来場され、活気あふれる講演会となりました。



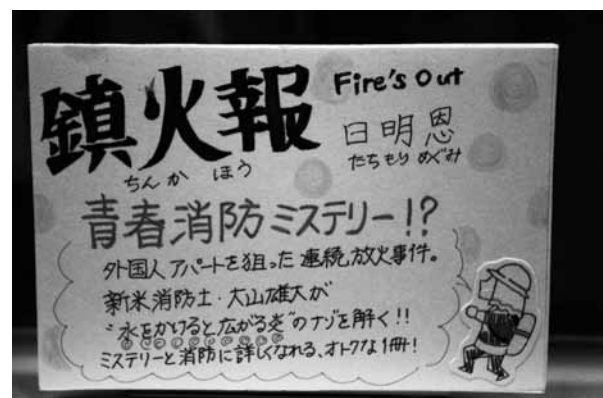
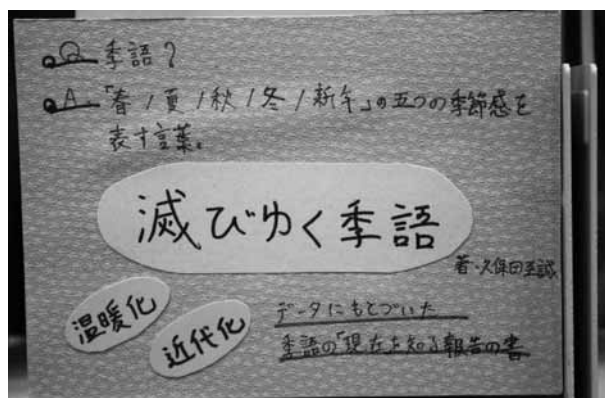
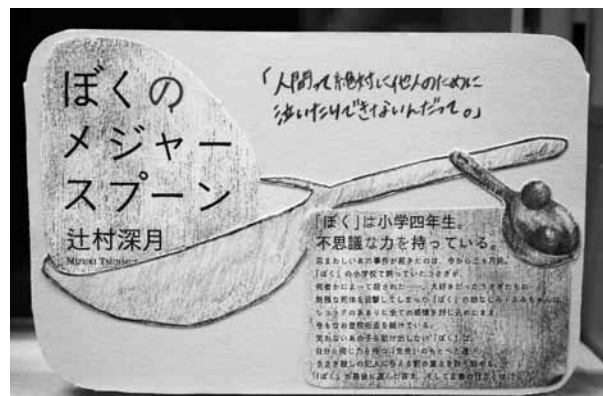
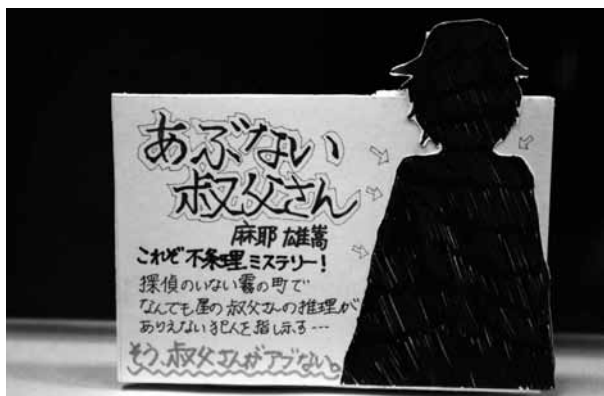
選書ツアー実施

8月3日（月）と9月17日（木）に、丸善丸の内本店にて選書ツアーを実施しました。両日あわせて14名の参加があり、2時間という制限時間の中で、参加者は真剣に本を選んで下さいました。

現在、8月に行われた選書ツアーで選ばれた本を館内に展示しています。文学から自然科学まで幅広い本が選ばれ、約60冊の本が陳列されています。



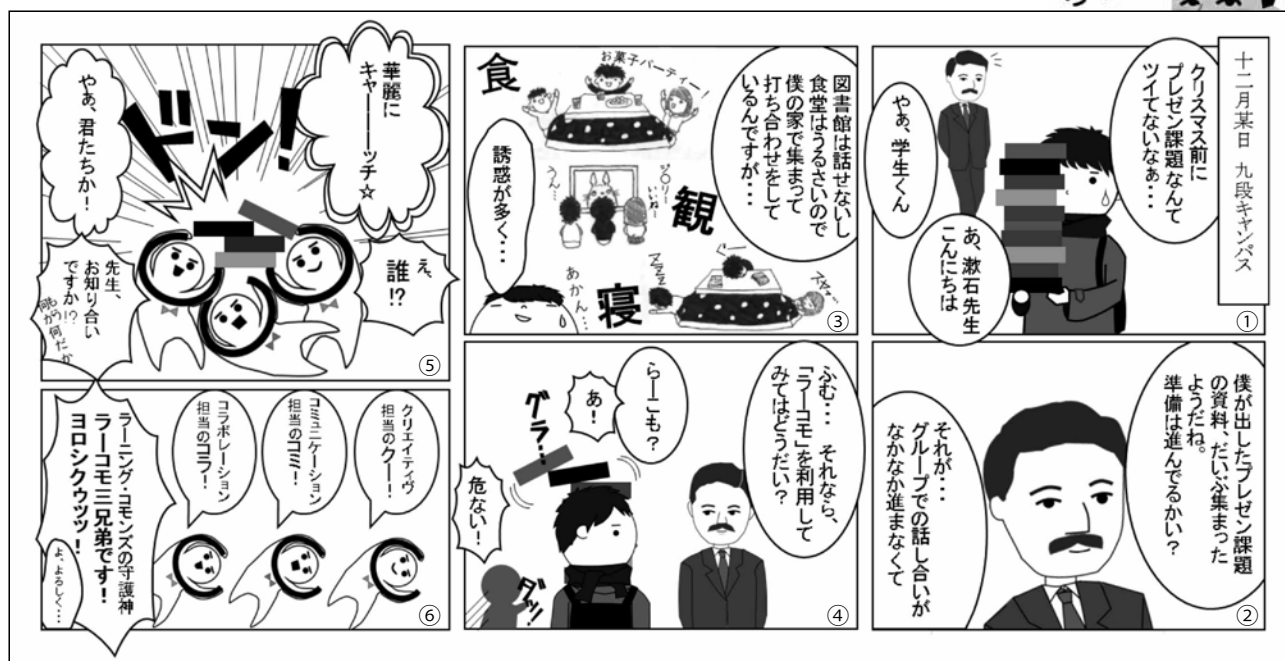
棚には参加者に作成していただいた、思わず手にとってしまうような、オススメ本のポップも飾られています。このポップを眺めるだけでも楽しいひと時を過ごせます。



教えて、漱石先生「ラーニング・コモンズを使いたい巻」

ラーコモ3兄弟

ちらっ



漱石先生：やあ、ラーコモ3兄弟、助けてくれてありがとう。そうだ！学生たちにラーニング・コモンズのことを少しばかり教えてあげてくれないかい？

クー：喜んで！ラーニング・コモンズは、2号館の1，2階にある**アクティブ・ラーニング**をしてもらうためのスペースだよ！ここを象徴する言葉が「**Creative! Collaboration! Communication!**」なんだ！

コミ：ところで、学生くん、複数人での打ち合わせは普段どこでやっているの？

学生：食堂とかかな、がやがやしているけど。図書館は静かな雰囲気だから、思い切り声を出して話せなくて。

コミ：そこ、そこ！白熱した議論がラーニング・コモンズではできるんだ！

机や椅子を自由に動かしたり、ホワイトボードを使ったりして自分たちが使いやすいようにコーディネートできるよ！

学生：雰囲気を気にせず話し合いができるっていいね！しかも、図書館とつながっているなんて！

コミ：そうだね！1階の学習スペースには図書館の本を持ち込めるんだ。**コピー**

機で気になる箇所を**複写**したり、**スキャナ機能**を使って本に載っている図版をデータ化して使ったりするのもオススメ！情報検索には自由に使える**常設PC**が便利だよ！

学生：PCがあれば、その場で資料やレポートにまとめることもできるね！

コミ：いいところに気がついたね！**貸出用PC**もあるから、常設のPCから離れた机でもさくさく資料作成ができるよ！**コ**

ピー機の**メディアプリント機能**を使えば、作った資料を印刷してグループのメンバーに配ることもできるよ！

クー：さすが、コミだね。わかりやすい！

漱石先生：ふむふむ。ところで、2階にも学習スペースがあるみたいだが、その奥のガラス張りの部屋はなんだい？

コラ：ふふふ、やはり漱石先生、目の付け所がシャープですね。そこは**プレゼンテーションルーム**、略して**プレゼン**

ルームだよ！最新のプレゼンテーション機器が揃っているんだ！

学生：その部屋も使っているの？

コラ：もちろん！**プレゼンテーションの練習やゼミ活動**にどんどん使ってよ！たとえば、学習スペースのPCで作成したプレゼン資料を使って模擬発表してみるとか。発表後にみんなで意見交換してブラッシュアップすれば、より良



い発表ができること間違いなしだよ！

学生：なるほど！発表の準備はいつもイメージトレーニングでやっていただけど、やっぱり本番は緊張しちゃう…。本番さながらに発表練習ができるのは、魅力的だなあ！でも、機器の操作がむずかしそう…

コラ：心配で無用！プレゼンテーションルームを貸し出す時にわかりやすいマニュアルを貸し出しているよ！それに、いろんな種類の機器が設置されているけど、それらの基本的な操作はiPadひとつでできちゃうんだ！



プレゼンテーションルーム

学生：iPadで機器を操作するなんて、すごい！なんだかアプリみたいで使いやすそう！どれどれ…

機器：ピッ ウィ————ン

学生：わあ、本当にiPadの操作で動きはじめた！PC画面を大画面で映すことができ、資料が見やすそうだなあ。

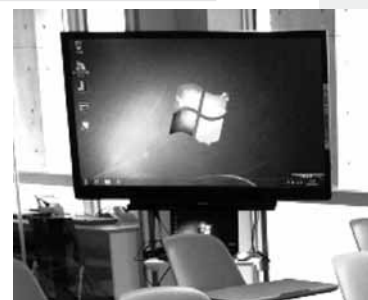
クー：プロジェクターにはPCだけじゃなくて、**Blu-rayプレイヤー**や**書画カメラ**を接続することもできるんだよ。発表の仕方もバリエーション豊富になるね！

漱石先生：ほほう、**こちらの壁は一部がホワイトボード**になっていて、プロジェクターで映した映像にペンでメモができるのか。おや、あちらには**独立した電子黒板**もあるな。なんというハイテク！明治の時代には考えられんことだ！

コラ：（漱石先生、何歳なんだろう…？）あ、ちょうどこれから発表する学生さんたちが来たようだ。少し様子を見てみようか！

発表者：「発表者の一松学（いっしょう まなぶ）です。今日は芥川龍之介について発表したいと思います。まず、……」

コミ：発表している人も、それを聞いている人たちも、みんな目が輝いているね！
かっていい！



電子黒板

学生：本当だね！僕もいますぐ使ってみたいよおおおお！

コラ：おっと、ちょっと待った！プレゼンテーションルームの利用には**予約申請が必要**なんだ！利用したい日の**1ヶ月前**から予約可能だよ。部屋を使う**メンバーが最低5人**いれば予約できるよ！

クー：予約申請をするときや質問があるときは、1階の受付カウンターまで来てね！待っているよ～（^_^）

漱石先生：ラーコモ3兄弟、ありがとう！これで学生たちのプレゼンテーションもグッと良いものができるだろう！



図書館だより

図書館カレンダー 開館日・開館時間は変更することがあります。詳しくは図書館ホームページをご覧ください。

九段図書館

12月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

12/23(水)は授業実施のため開館

1月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

1/14(木)～16(土)はセンター試験(準備)のため閉館

2月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29					

2/1(月)～3(水)は入試のため閉館
2/15(月)は電動書架点検のため閉館

閉館

8:40～21:50

9:00～16:50

柏図書館

12月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

1月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

1/14(木)～16(土)はセンター試験(準備)のため閉館

2月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29					

閉館

9:15～17:00

9:15～16:30

図書館員のつぶやき

先日、柏から取り寄せてほしい参考図書があるということで取り寄せの申請書をお渡ししました。どんな資料を取り寄せるのかと思ったら『角川古語大辞典』と書いてあるではありませんか。「ちょっと待って、さすがにそれはありますよ」と心の中で(大声で)叫びながら、資料の場所を案内したということがありました。

一言申し添えますと、この辞書に関しては重たい現物を用いずとも、図書館のHPから見ることができます。トップページにある「CD/DVD-ROM資料」をクリックすると4つのタイトル(「新聞記事」「古典」「辞典・辞典」「その他」)が出てきます。その「辞典・辞典」をクリックすると「角川 古語大辞典」があり、検索をすることができます。

また、この辞書は使用頻度が高いため、修理中の場合もあります。「CD/DVD-ROM資料」も時には活用してみてもいいでしょうか。

編集後記

季報94号をお届け致します。今号では「冬」をテーマとした大変興味がわく文章を佐藤・伊藤両先生よりいただきました。感謝申し上げます。表紙もテーマに倣い、ツワブキを載せてみました。

ラーニング・コモンズにもぜひ足をお運びください。新たなキャラ(?)、ラーコモ3兄弟も首を長くしてお待ちしてます。

二松学舎大学附属図書館

季報

第94号

発行日 平成27(2015)年12月1日

発行 二松学舎大学附属図書館

九段図書館 〒102-8336 東京都千代田区三番町6-16

電話: 03-3263-6364

柏図書館 〒277-8585 千葉県柏市大井2590

電話: 04-7191-8758

印刷所 株式会社 サンセイ

電話: 03-5227-8333